

第5分科会 「広報活動」

石川大会参加レポート02

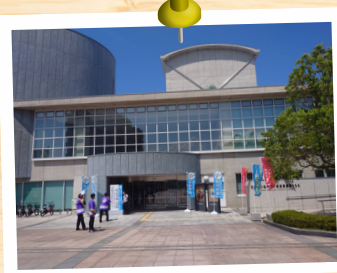
第73回日本PTA全国研究大会 石川大会の第5分科会「広報活動」が金沢歌劇座で行われました。当分科会は三部構成になっており第一部では的場茂樹先生（金沢大学准教授）が、自身の経験を活かし校長先生が地域やPTAとつながる姿勢を示すことで、保護者や地域の方々も思いを伝えやすくなると話され、信頼関係を築く努力の大切さを感じさせました。

第二部では阿部雄介さん（岐阜県P会長）が、役員を立候補制にした事例を紹介し、「やりたい人が楽しく活動することで、次の担い手も自然に生まれる」と語られました。また知人がくじ引きで会長になり末期ガンと知りながらも引き受けて任期半ばで亡くなってしまったというエピソードには胸が痛み、役員選出の方法についても考えさせられました。

第三部では大谷イビザさん（ウェブ編集長）が、LINEなど身近なツールを活用し、対面とオンラインをうまく組み合わせることで無理なく広報活動を進める工夫を紹介。「今しかできない活動を楽しむ気持ちが大切」との言葉が心に残りました。

一口に広報活動といっても、情報の発信、周知、伝達等、様々な目的がありそれぞれに合った方法で行わないと意味がないと言う事を気付かされました。

副会長 鈴木 哲也



第1分科会 團十郎芸術劇場うらら



第3分科会 開会式



第5分科会 スクリーン



第5分科会 会場内の様子

特別第2分科会 「今日的課題」

石川大会参加レポート03

令和7年8月22日から23日にかけて、第73回日本PTA全国研究大会 石川大会が開催された。初日である22日金曜日、石川県立音楽堂コンサートホールを会場とした特別第2分科会「学校教育における防災の学び ～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から得られた教訓をどう生かしていくか～」に参加した。

当分科会は文部科学省の協力により、基調講演と被災地での実践活動を交えたパネルディスカッションで構成されたものである。

我が国は、阪神淡路大震災から30年が経過したものの、昨年は能登半島地震により多くの尊い命と平穏な生活が奪われることとなった。その間においても東日本大震災や豪雨災害をはじめととして、様々な自然災害に見舞われている。自然災害は、大人だけでなく子どもも当事者となる。自然災害の多い我が国において必要なことは何か、それが防災教育である。私たち一人ひとりが自然災害についての正しい知識を持ち、事例を知ることが防災教育の第一歩となる。図らずも被災した地域では、学校を核とした地域復興、地域づくりが行われており、それは言い換えれば子どもたちを核とした地域づくりとなる。

子どもたちにおける防災教育は、災害時に自らを守ると共に自らの住む地域の実情を含めた数多くの事柄を学ぶことによって、郷土愛を育むことが可能となるものであることを学んだ研修であった。

情報発信委員 佐藤 達也